

〈ケア〉を考える会 (第117回)

■日時：2018年3月4日(日) 13:30~17:30

■会場：京都市山科区安朱中溝町3-2
山科駅より東 徒歩3~4分の民家
(山添 宅) (安朱保育園 東隣)

■当日の大きな予定

13:00 ⇒ 有志集合…会場準備等
13:30~ ⇒ 学びの会/対話
15:30頃~ ⇒ 懇親会(笑いヨガ/音楽演奏も)
17:00~17:30 ⇒ 片付け、終了
(その後で、名残惜しコーヒータイム?)

■内容

(1) 報告と対話

「『いる』『いない』の存在論」(仮題)

~認識と存在の関係みたいなのところを考えてみたい~

報告者：森木田 一毅 (司法書士)

(参照テキスト：「道」通信1月号と2月号)

林道也が1月の発表で亡くなった母親のことを取り上げて、「いるようにいない」「いないけどいる」などと話したことについて、「哲学者」としての森木田さんの心が強く反応しました。

「『いる』『いない』ということをもっと掘り下げてみたい。」

「なにか自分の中でもやもやしているものを形にしたい。」



(2) 懇親会……食べながら飲みながら語り合います(持ち込み歓迎)

★懇親会参加者は実費(1000円程度)ご負担願います。

★申し込み・問い合わせ⇒ 林まで：michi-care@outlook.jp 090-5366-1497

★どなたでも参加できます(初参加歓迎)。先着20名程度

▼母のいない餅つき。母の煮しめが作れない。雑煮で母の味が出せない。地域の付き合いで母に相談できない。……。この年末年始、母の不在をいろいろ思い知ります。不在がその存在を大きくします。一方で、母がそこにいるように感じることもありました(「霊」とかではなく)。「いる」ようで「いない」。「いない」けど「いる」。心の中かどこかに「いる」。

(〈道〉2018年1月号より)

▼ふさ子さん、あなたにとって僕はどのような存在でしょうか。ただのケアマネ。でも、あなたのことが気になってしょうがないケアマネです。僕の心の中にちゃんとあなたが居ます。ふさ子さんの心の片隅にでも僕が居てくれたらいいな。

(〈道〉2018年2月号より)

<https://michi-care.jimdo.com/道-2018年/>



わたしたちはじぶんのいのちが他のいのちとの交換のなかにあることを知らされる。

(鷲田清一『老いの空白』P.227)

ひととひととの関係において重要なものは、各人が主体的にどのようにしようとしているかではなくて、いつとはなしにお互いが心を開いてしまっているという事態である。

(池上哲司『傍らにあること』P.169)

おたがいの言葉を手がかりに考える時間をもつこと、確かめながらゆっくりと考える時間を共にし、分け合う。「考え」でなく、「考え方」をお互い共有してゆく。

対話には結論はありません。プロセスをゆたかにできなくては。

(長田弘『なつかしい時間』P.191)

「ケア」を考える会 ホームページ
<http://care-kyoto.jimdo.com/>

「ケア」を考える会-岡山
<http://okayama-care.jimdo.com/>